

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年10月11日 NO.49



オー君 「あれあれ？木の上に何かいるよ。何だか黒い鳥みたいだね。」

花ちゃん「そうね。私も始めはカラスかと思ったの。」

オー君 「カラスじゃないの・・・そう言えば、少し頭や口ばしの形がちがうようだね。」

花ちゃん「カラスとは飛び方がまったくちがうのよ。」

オー君 「どんな飛び方だったの。」

花ちゃん「あのね、首を前に出すようなかっこうで飛ぶのよ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。ところで、何という名前の鳥なの。」

花ちゃん「この鳥はね、カワウというのよ。体は黒くて、先のまがった長いくちばしと長い首の鳥ね。」

オー君 「ふーん。なるほど。それから、尾っぽも長いようだね。他にカワウには、どんな特徴（とくちょう）があるの。」

花ちゃん「体を立ててとまるし、グワックワツとか、グルグルとも鳴くわ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。」

花ちゃん「それから、このカワウというのは、お魚をよく食べる鳥で、川の魚を取るのがとても上手（じょうず）なのよ。」

オー君 「ふーん。なるほど。」

花ちゃん「魚を取るときには、1分以上ももぐってられるんだって。」

オー君 「え！1分も！」

花ちゃん「そうよ。それに10mくらいの深さまでもぐれるそうなのよ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ・・・あ！思い出した。この魚って、ひょっとしてひょっとして、『うかい』？」

花ちゃん「ピンポン。その通り。オー君は物知りね。うかいというのは、漢字で書くと『鵜飼』となるの。カワウを飼いならして、アユなどの魚を取らせることなのよ。岐阜県（ぎふけん）の長良川（ながらがわ）の鵜飼（うかい）と言えば、とても有名なのよ。」

オー君 「でも、そんなにお魚を取るのがうまかったら、カワウにとってはいいけど、その魚にしてみれば、いつも食べられてしまって、大変なことにならないかな。」

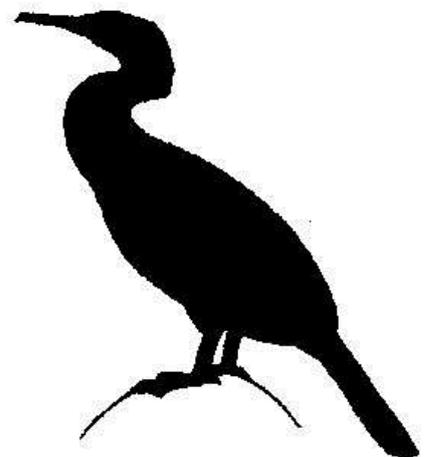
花ちゃん「そうなの。少なすぎてもこまるけど、増えすぎてもこまるでしょ。それで、カワウは、狩猟鳥（しゅりょうちょう）として、野鳥だけど、取ってもいい鳥ということになってしまったのよ。狩猟鳥は、日本に29種もいるのよ。」

オー君 「ふーん。なるほど。」

花ちゃん「ところで、さっきからオー君は何をしているの。エンピツをもって、何かかいているようね。ねえねえ見せてよ。お願い。」

オー君 「どうだい。おもしろい形をしているなあと思ったので、シルエットにしてみたのさ。」

花ちゃん「うわあー。オー君。とても上手（じょうず）ね。こうして、シルエットにしてみると、鳥の形が本当によくわかるわね。」



**カワウのシルエット**